

組合士さん

こんにちは

訪ねた組合士

協同組合システムネット北千葉  
専務理事 石川 雅 浩さん  
事務局員 石川 真由美さん

## 組合原点に忠実に、新しい提案型組合運営も目指す

### 組合(役)員で組合士

協同組合システムネット北千葉の一員であり専務理事を務める石川雅浩さんは、組合員として組合士資格を取得し、組合を牽引している「組合員組合士」である。

なぜ、組合員組合士が誕生したのか、そのお話を伺っていくと、「何のための組合か」という「組合の原点」に常に真摯に向き合う組合、そして組合士の姿を確認できるように思える。

### ローカルネットワークシステムとの出会い

そもそも組合員である前に、石川さんは、お父さんが創業され兄弟3人で引き継いだ(有)石川運輸の取締役として広く経営サポートに当たる経営者である。

元来、「仕事に役立ちそうなことにはまず関わってみる」という石川さんは、運送業と関連の深い保険業にも携わるなど、守備範囲は広く、フットワークも柔軟である。今からおよそ12年前に、これで1つの「可能性」を見つけた。まだ立ち上がって間もなかった「日本ローカルネットワークシステム」である(同シス

テムの詳細は本誌21頁「協同組合交差点」を参照)。当時、大手システムメーカーにも同様のシステムはあったが、「運送業の現場を知っている同業者が作ったシステムは本当に使い勝手が良かった」ため、さっそく自社も参加を望んだ

が、同ネットワークへの加入要件は「組合であること」だったため、単独一社での加入は認められなかった。「それなら同志を募ろう」と地元・野田市を中心に動き始めた石川さんは、市川市で同様の活動を始めていた、原現理事長と知り合い、協力して組合設立に取り組んだ。これが協同組合システムネット北千葉である。

### 「信頼」で繋がる7社

同組合は、組合員数7社と小規模である。しかし、「中小運送業という仕事、事業への価値観や能力が高く、良く分かり合った、がっちりした信頼関係で結ばれた仲間」で構成された組合」と自負していると石川さんは言う。

組合員の中心世代は30〜40代であり、「変化や変革に柔軟な精神の持ち主」が

集まっているため、「1社単位では無理でも組合でなら対応できる、これからの運送業として自社のあり方を考えると必要な事柄」について発足当初から熱心に研修事業に取り組んできている。

しかも、「経営者ばかりが集まっても実効性は低いから」と、実務者の参加も積極的に進め、さらに「勉強ばかりじゃつまらないから」と、研修後にはざつとばらんな食事会や飲み会を一緒にセッとし、そこで他社の経営者や実務者、さらに経営者の奥さんらとも交流できる機会づくり、場づくりを続けてきている。石川さんの奥さんであり、石川運輸の経理担当かつ同組合の事務局員を務める石川真由美さんは「組合の事務連絡などで電話やメールをしても、その向こうにいる相手の顔が見えていないと、互いのコミュニケーションが格段に良くなる」と、「誰でも参加」研修の効用を実感と共に説く。

### 提案できる組合士を目指して

「うちは、あくまで本業を良くするための組合。その意味では、組合は本業のためのツールと位置づけている」と基本

スタンスを語る石川さんは「だからこそ組合のことをきちんと知りたいたいと思い、それなら、資格取得を目標にした方が勉強も進む」と、真由美さんにも資格取得を指示し、2人で見事に合格した。

「無駄はできるだけ省きたいから事務局運営も必要最低限の人員と設備しか持たない」と身軽で柔軟な組合運営であるが、「それだけに守るべきことは守る」と、組合組織、会計、運営についてきちんと勉強して知識を獲得したのだという。そういう石川さんなので、新しい情報

知識の獲得にも熱心で、組合改正法を受けて全国中央会が初めて開催したスキルアップ研修にも参加した。その結果、「組合士であるからには、組合員に将来を見据えた提案をして運営に当たってほしい」と、自らの組合士としての位置づけを「提案型組合士」と定め、例えば環境やリーダー育成などこれから運送業界、運送事業者として重要度が高まるテーマに焦点を当てた研修など、企画提案を準備中とのことである。

